

(水泳部) 朝日新聞に掲載されました。

9月17日(日)発行の朝日新聞にて本校水泳部の水中ホッケーの活動が紹介されました。

同日、17日に予定されていた水中ホッケー日本オープン大会ですが、台風の影響で中止となってしまいました。これまで練習してきた分を發揮できず、生徒たちは不完全燃焼ですが、次回の大会で活躍する糧とし、チームとしてさらに成長をしていきたいと思ひます。

水泳部は、10月1日に競泳の記録会、10月21日・22日に水球の新人戦を控え、日々練習に励んでいます。

今後も、生徒たちの応援、海洋科学高校水泳部を宜しくお願いいたします。

バックをスティックで奪ってゴールを目指す水中ホッケー 萩原佑介教諭指導



高校初 水中ホッケーチーム

海洋科学高に発足

県内唯一の水産・海洋系高校である県立海洋科学高校(横須賀市長坂)の水泳部に「水中ホッケー」のチームが発足した。日本水中スポーツ連盟(東京)によると、高校にチームができたのは全国で初めて。部員らは「まずは試合で1勝を」と意気込む。

水中ホッケーはシュノーケルやフィン(足ひれ)を付けて水中に潜り、小型のスティックを使い、

ゴールやスティック、バックなど水中ホッケーの主な用具

「まずは試合で1勝を」

指導にあたる同校の萩原佑介教諭(26)は埼玉県の水中ホッケーチームのメンバーとして日本選手権で3連覇を果たし、アジア大会に出場した経歴を持つ。

水泳部は男子8人、女子3人の部員11人。萩原教諭が顧問を務め、練習の合間に水中ホッケーを体験させたところ反応が良く、部員から「チームをつくろう」との声が上がり、今年7月にチームが発足した。25日は無呼吸で泳ぐ潜水練習などをこなし、部員の根橋里佳さん(1年)は「水の中は思ったより激しい動き。息継ぎや体が慣れるまで大変でしたが、今はバックを追うのに夢中」と話す。

部員らはいま、全国大会への出場に向けて練習に励んでいる。水泳部主将の関戸柚安さん(2年)は「水中ではアイコンタクトなどで連携を取り合い、仲間とのコミュニケーションが大事なスポーツ。まずは1勝を目指したい」と語る。

萩原教諭によると、国内の競技人口は200〜300人と認知度はまだ低いのが、元々は英国発祥で「世界選手権も開かれるなど世界では広まっている」という。「陸上とは異なり、水の中を360度縦横無尽に動き回るので「3次元スポーツ」とも呼ばれています」と競技の醍醐味を語る。

部員らが使うスティックは萩原教諭が木材を削って手作りした。萩原教諭は「高校の部活動として日本に広めたい。希望があれば県内外問わず全力で支援します」と話している。

(前田善行)

プールで重さ約1.3kgのバックを運びあつてゴールするゲーム。国際大会は1チーム6人だが、国内大会は1チーム4人で対戦するという。

水中ホッケーチームの生徒たち=県立海洋科学高

デジタル版はこちら

<http://www.asahi.com/articles/ASK9D42S5K9DULOB00S.html>